3. 1. 59.　「全炭化水素（以下「ＴＨＣ」という。）」とは、水素・炭素質量比が1.85：１の炭化水素として示される、ＴＨＣを測定するための指定手順で測定した有機物成分の合成質量をいう。
3. 1. 60.　「変換時間」とは、基準点において測定される成分が変化してから、システム応答が最終的な読み値の50%（t_{50}）に達する時間差をいう。変換時間は、各種測定器の信号の時間軸の調整に用いる。図3. 1を参照のこと。
3. 1. 61.　「過渡試験サイクル」とは、相対的に早い時間で変動する一連の正規化回転速度及びトルク値での試験サイクルをいう（ＮＲＴＣ試験サイクル）。
3. 1. 62.　「記録の更新」とは、分析計が新たに最新の値を示す頻度をいう。
3. 1. 63.　「有効寿命」とは、該当するガス状及び粒子状排出物の限度に適合していることを保証しなければならない、該当する経過期間又は時間をいう。
3. 1. 64.　「検証」とは、測定装置の出力が、受諾用に事前に定められた閾値の適用基準信号の範囲内であるかどうかを評価することをいう。
3. 1. 65.　「ゼロを調整する」とは、純窒素又は純空気で排出ガス成分の濃度を測定するなど、ゼロ校正基準に対してゼロ応答を示すように機器を調節することをいう。
3. 1. 66.　「ゼロガス」とは、分析計におけるゼロ応答をもたらすガスをいう。当該ガスは、純窒素、純空気、純空気及び純窒素の組み合わせのいずれかとすることができる。

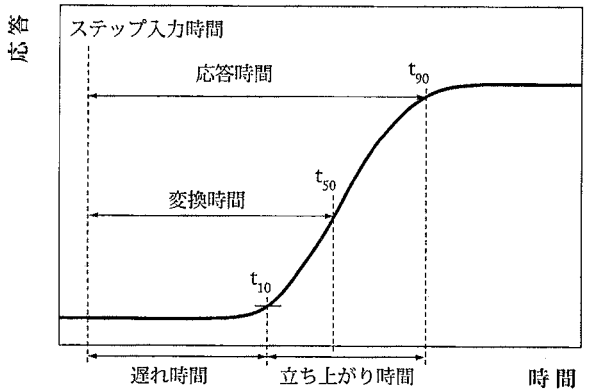


図3. 1：システム応答の概念図

3. 2.　一般的な記号

記　号	単　位	内　容
a_0	—	回帰直線のｙ切片
a_1	—	回帰直線の傾き
α_{sp}	rad／s^2	設定点でのエンジン回転速度の導関数
A／F_{st}	—	理論空燃比
c	ppm／vol%	濃度（μmol／mol＝ppmとしても表される）
D	—	希釈係数
d	m	直径
E	%	転換効率
e	g／kWh	出力比基準
e_{gas}	g／kWh	ガス状排出物排出率
e_{PM}	g／kWh	粒子状排出物排出率
e_W	g／kWh	重み排出物排出率
F		Ｆ検定統計量
F	—	再生が生じている期間中の試験の割合についての再生の頻度
f_a	—	実験室の大気条件係数
k_r	—	乗法調整係数
k_{Dr}	—	下方調整係数
k_{Ur}		上方調整係数
λ	—	空気過剰率
L	—	%トルク
M_a	g／mol	吸入空気のモル質量
M_c	g／mol	排出ガスのモル質量
M_{gas}	g／mol	ガス状成分のモル質量
m	kg	質量
m_{gas}	g	試験サイクル中のガス状排出物の質量
m_{PM}	g	試験サイクル中の粒子状排出物の質量
n	min^{-1}	エンジン回転速度
n_{hi}	min^{-1}	高回転速度
n_{lo}	min^{-1}	低回転速度
P	kW	出力
P_{max}	kW	（エンジン製造者が指定した）試験条件における試験回転速度での最大出力又は定格出力
P_{AUX}	kW	試験用に装備された付属装置が吸収した公称総出力
p	kPa	圧力
p_a	kPa	乾燥大気圧
PF	%	通過率
q_{maw}	kg／ｓ	湿り状態での吸入空気質量流量